

★平成23年度〔児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験〕
「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」 in 豊岡市(兵庫県) 実施レポート
【コーディネート団体名】 NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク(JCDN)
【都道府県・政令指定都市名】 兵庫県豊岡市
*地元コーディネーター : 豊岡市民プラザ (豊岡市大手町 4-5 アイティ7F)

<実施日・学校・講師>

10/3-5 講師:山田珠実 in 豊岡市立西気小学校

11/14-16 講師:藤田善宏 in 豊岡市立新田小学校

12/5-7 講師:鈴木ユキオ in 豊岡市立中筋小学校

<実施内容>

各学校ともに、1日90分(連続2時限)×3日間、学校の授業の中でダンスのWSを行った。

■豊岡市立西気小学校 2011.10/3-5

アーティスト:山田珠実/講師

片岡祐介(音楽家)/補助者

対象:3・4年生 13人 *複式学級

ワークショップの内容

1日目 珠&祐ちゃんのダンス→新聞紙を使って遊びを考える(縄跳び、スキー、音をならす、など)→音に合わせて、とにかく動いてみる。新聞紙を介して戯れるうちに、いろんな動きを知る。

2日目 ウォーミングアップ→新聞紙を一枚の布のように大きく広げてみんなで広げたり、中に入ったり、全員で一枚の新聞紙と遊ぶ。→音地蔵大会(祐ちゃんが地蔵になり、誰かが新聞紙で音を出すと音にあわせて地蔵が動く、という遊び)→担ぎあい(2人1組ペアで、片方が片方を担ぐ。担がれたときの意識のちがいを体験する。)→みんなで音・動きのまねっこ(音・動きの両方を使って、一人のリーダーの真似を全員で追いかけるように真似る)

3日目 前日までに様々な遊んだ内容を思い出し、それらをつなげて一連のダンスにする。その構成は子ども達が順番も内容も題名まで決めていった。題して「子どもコンテンポラリーダンス」の完成。最後は、全校生徒の前で発表。終了後は、全校生徒+先生とで音・動きのまねっこ大会。



子ども達はとてもシャイで、集団でないと、なかなか物事を楽しんで行えない様子だった。

しかし、いざ発表のための準備になると、構成を考えるのが得意で、子供たちが自ら、どういう構成にしたいかを言いあい、すぐにパフォーマンスの内容が出来上がった。自分で考えたり意見を言ったことがそのまま発表内容に反映されるのは、実に面白い体験だったと思う。

一回の通しでやることもばっちり覚え、全校生徒の前で発表。本番はちょっぴり恥ずかしがってしまって、リハーサル以上にイキキとはできなかった点もあったが、校長先生からは、「人前で発表ができただけでもすばらしかった」、というお言葉をいただいた。とても集中力がある子どもたちでした。

<ワークショップ 1 日目の様子>



▼初めてアーティストに会う日。教室に入るとそこには大きな新聞紙が。中から珠さんゆうさんが現れると…



▼恐ろしいものを見たばかりに、本気で逃げ回る子ども達。珠さん、真剣に追いかける。



▼珠&ゆうさんがパフォーマンスを終え、子ども達にご挨拶。なんとなくまだぎこちない様子の子も達。



▼まずは身体ほぐしからやってみよう。と、珠さんの動きをまねて動く。



▼次はあの大きな新聞紙を使ってみよう！ どんなことができるかな。…まずはみんなで持ち上げて…。



▼下に落として、踏んづけてみる。色々な音が出る。



▼もう一回持ち上げてみよう。あっその前に…、端っこをもじりもじりするとさつきと違う感触。音も違う。



▼持ち上げて…、どうしたい？「中に入りたい！」じゃあ入ろう！おー。



▼一人一枚新聞紙をもらって、新聞紙で遊ぼう。まずは自分の名前の一文字を作ってみよう。



▼また新しい新聞紙を一枚もらって、身体を使って遊んでみよう。頭にのっけたり・・・



▼足の上ののっけたり。いろいろ試してみよう。



▼次は新聞紙を床に置いて・・・、新聞紙の上だけ歩く！



▼色々な遊びの発明を子どもから引き出し、どんどん展開していく。これは、新聞紙を足で集めたら船になった瞬間。



▼他には・・・、綱引き！これが子ども達は大好きで、どんどん緊張がほぐれ、遊びがエスカレートしていく。



▼そうこうしているうちに新聞紙が細切れになって散らばり、それを集めて服のようなものを作りだした。中にゆうさんがいるのだけど・・・。



▼やんちゃな子達は、なおも綱引き。思い切り引っ張って切れた時の反動で転ぶ。これも動きの一部。



▼ひととおり遊びきったら、床をみんなで清掃。室内を少し暗くして、次は・・・、新聞紙にくるまれたゆうさんと、たまさんが急に踊りだす。



▼このままパフォーマンスを見るのか・・・と思いきや、一緒に！と誘われる。



▼最後は全員で腕をしっかりとつないで引っ張り合い。引くとき、引かれるときの相手の感覚を知る。カオスのような状態になって、1日目は終了！



▼(終了後)新聞紙でつくった服がお気に入りになって、大事そうに着ていた。

<担任の先生方からのメッセージ> *終了直後にお聞きした感想

●担任の岡本先生より

山間部の僻地にある学校ということもあって、恥ずかしがりやで人前で何かをするのが苦手で、特別目立ちたい子もなく、平均的な子ども達。だから最初は(珠実さんから遠ざかるようにして)逃げたり、ついていけない様子だったけど、2日目・3日目と時間を経るごとに朝の様子が違ってきた。3日目はやる気満々だった。とてもいい刺激になったと思う。また、コンテンポラリーダンスってなんだろう、小学生が何をやるのかな？と思っていたの

けど、その内容が自分にとっても勉強になった。体育の授業で表現運動というのはあるが、それはフォークダンスや組み合わせのようなものなので、また違った表現があるのだなと。それと、生徒達が自分で作ることが出来るという点も新鮮だった。

●副担任の先生より(*子ども達と一緒に発表に参加)

生徒には予めどんなダンスなのかをまったく知らせずに、ダンスをやるよ、とだけ知らせて始めたので、最初のたまさん&ゆうさんのダンスをみて、本当に得体の知れないものを観たかのようにびびりしていたようだ。発表のとき、新聞紙の中に隠れているときの子ども達が、本当にいい顔をしていた。最後に、(お客さんからみて)奥のほうに引いちゃったのが残念だったけど、それが課題だということも分かったし、その力をつけていかなければいけないなと気づかされた。子ども達は本当にイキイキしていたし、いやいやしてる子が一人もいなかった。

●校長先生より

この募集を知ったときに、人間関係を構築していく、ということと内に秘めているものを開いていく、という点に魅力を感じて3・4年生を指名した(3・4年生それぞれに、個々の関係性の微妙な部分があった。)。発表ではそれぞれの子も達がちゃんと自信を持ってやっていたと思う。素晴らしい機会をいただき、感謝しています。





■豊岡市立新田小学校 2011.11/14-16

アーティスト:藤田善宏・山本光二郎 対象:6年生 34人

担任の嶋崎先生が藤田善宏さんの学生時代の後輩にあたる方で、今回、この事業を知って、「藤田さんに来てほしい」とラブコールをいただきました。

実は、先生の声かけにより、夏にクラス全員でつくったダンスがあり、なんと、そのダンスで豊岡市民プラザで行われるダンス大会に出場することが決まっているという。そこで、初日は、まずそのダンスを見せてもらうことに。それが、あまりの堂々とした踊りっぷりで、藤田さん・山本さんも驚き。すぐに、フォーメーションや細かいバッチの確認など、発表に向けての手直しに入りました。他にも、コンドルズの創作方法を取り入れたシーンを、最終日の発表用につくりました。

子ども達は、心底このWSを楽しみにしていて、実際にやってみると、先生もびっくりするほどの食いつき具合でした。様子を見ていても、目がきらきらと輝き、全身から発散されるオーラがあり、それをショーイングでは出し切っていました。藤田さん山本さんも、こんな子ども達に出会うのは初めてだと、最後に子ども達に感謝と激励の言葉をかけていました。

ショーイング後のお別れの時間では、子ども達が藤田さん、山本さんを胴上げ！そして、お見送りは、校舎の外から車の座席に座るところまで、飾り花のついたアーチを2人1組でもって、花道を作って見送ってくれました。車が発車した後も追いかけてきて、どこの映画のワンシーンだろう・・・という感動的な最後でした。

先生は、「本物に出会えたことが大きいと思う。」と最後におっしゃっていました。子ども達にとって、奇跡のような3日間だったのでしょ。子ども達が自らダンスを作ってWSに臨むということはこの先生だからこそ、おそらく一般的には珍しいケースだと思いますが、関係した全員にとって、記憶に残る3日間となりました。



ワークショップの内容

1日目 自己紹介(子ども達が講師歓迎のため、準備してくれたセレモニー)タイム→夏にクラス全員で創作したダンスを発表→そのダンスを見て、具体的なポジションや踊り方などについての指導

2日目 ウォーミングアップはコンドルズのレパトリー、「てっぱんダンス」をみんなで踊る。→豊岡市の風景を題材にしたダンスシーンを創作。川の名前や田園風景などをインタビューしながら、動きに取り入れていってダンスにする。

3日目 ウォーミングアップ→コンドルズのもう一つのレパトリー「郷ひろみ『笑顔にカンパイ』」を踊る→今までに踊った3つのダンスをつなげて、見せられるよう稽古→全校生徒の前で発表。終了後は、全校生徒+先生総勢200名が「てっぱんダンス」を2回踊った。



■豊岡市立中筋小学校 2011.12/5-7

アーティスト:鈴木ユキオ

アシスタント:安次嶺菜緒

対象:5・6年生 34人 *2学年合同授業



ワークショップの内容

1日目 ウォーミングアップ→指差しごっこ(2人1組で一人がもう一方を指で操るように動かす。制約を加えることで思いもよらない動きが生まれる)→空気ボール投げ等2人1組の遊びをいくつか行う。

2日目 講師自身のダンスを見せる→ウォーミングアップ→A4用紙を一人1枚ずつ持って、その紙との関係で生まれる動きを様々に試してみる(頭の上に載せて動く、落とさないよう回す、等)→まねっこダンス(アシスタント・なおさんの動きに合わせて真似をしながら楽しく体を動かす)

3日目 ウォーミングアップ→2日間で行ったことを一つにつなげてショーイングの稽古。出るところのポジションから、最後の決めまで途切れないよう繰り返し練習。→1年生を観客に招いてショーイング。



子ども達は、初日は少し戸惑っている様子が見られたけれども、日を追うごとに集中力を増していった。最終日のショーイングは、前2日間でやったいくつかのワークを組み合わせ、形にした。構成はアーティストが行った。内容的には、2人1組になって一方がもう一方の目に2本の指を向けて、その指を動かすことで相手の動きを誘導することで生まれる動きを前半、体育館全体を使って行う。ルールとして、床のライン上を動くこと、という制約がついている。その後、全員が中央に集まり、その中に安次嶺さんが入って、まねっこダンスが始まる。その流れで、舞台前方に置いておいた紙をひろい、今度は紙をつかって少しあそぶ(まねっこの続き)。最後に、紙を頭の上に乗せてゆっくりと後方から観客に向かって前進、途中でケモノのように姿勢を低くして床にはいつくばったところで終わる。紙を落とさないように、真剣な面持ちになる子ども達。また、すぐゴールに着く子と、ゆっくりじっくりとゴールまでを味わう子と、様々。それらがパフォーマンスとして見られる身体になっている。全員がもじもじしないで、堂々としてかっこよく見えた。



子どもにとっては全てがはじめての体験で、最後の感想では皆が口々に、「ダンス＝早い動きのもの・TVでみるようなやつと思っていたからびっくりした」とか、「ゆっくりなダンスもあるんだ」「新鮮だった」という。‘ゆっくりな、みたことのないダンス’を知ってもらったいい機会になった。先生からも、「普段はおとなしい後ろにいるような子がびっくりするような動きをしていた」「普段やったら怒られるような動きを、ここでは大胆にすることができた」など、驚きとともに大変いい評価を頂いた。また、本事業に申し込みをされた校長先生からも感謝の言葉をいただき、良い形で終わることができた。



最終日、それまではそれほど積極的な様子ではなかったのにも関わらず、アーティストが帰る時間になって、全員がバートと鈴木さん・安次嶺さんのほうに駆け寄ってきてくれて、藤田さんのときと同じような、大握手大会になり、また車が発車した後も走って見送ってくれるという映画のワンシーンのような最後でした。

鈴木さんのワークでは特に、無理せずありのままの状態に委ねるやり方だ。なので、声をかけるときも、「いいねいいね」というのをたくさん言ってあげて、代わりに、動き方については「もっとこうして」「こうするといいよ」というような具体的なことはほとんど言われない。たぶん、正解はひとつもない、という信念からではないだろうか。そういうどんな動きにも可能性があるということ、身体をもって伝えられたワークだった。

<担任の先生方からのメッセージ> *終了直後にお聞きした感想

●ストーリーのない踊りを初めて知って、表現の仕方がとても参考になった。子ども達はみな、自分の身体の使い方、動かし方を知らない。それが今回、自分の身体は操れるものだということを学んだと思う。

また、心の面でも解放された。集団の中でも、自分の動きを作っていた。自分の心を出して、動きにあらわすことが出来ていて、とても感動した。



事業後、担任の先生方に実施したアンケート 回答

※全回答数:3枚 (各1校ずつ、いずれも担任教諭が回答)

Q. この事業に応募した動機やきっかけをお聞かせ下さい。

- ・ ダンスの体験活動を通して、自分の想いや考えを積極的に伝える力と、一人一人の力を結集させて一つのことに臨む気持ちをより培うことを期待して応募しました。(西気小)
- ・ 一昨年も1日来ていただいてよかったのと、ダンサーを希望できたこと。(新田小)
- ・ 子どもたちの身体を使った表現力の育成をはかりたいと考え、プロのダンサーの技や人との出会いを願った。(中筋小)

Q. この事業を実施してどうでしたか？ (先生ご自身について)

- ・ いつも活発な子ども達の、初めてのことに挑戦する時の不安そうな様子や、ダンスの世界に引き込まれ、楽しそうに目を輝かしている様子を見ることができました。私自身もとても楽しく、学び多き時間となりました。(西気小)
- ・ とてもダンサー確定まで時間がかかり大変でしたが、学級としても学校としても、とても満足です。ダンスを通して職業について触れられたり、良かったです。またお願いしたいです。てっぱんダンスはその後の児童朝会でもしました。(新田小)
- ・ 子どもたちの自由な発想や夢中で表現する動き、表情も生き生きしており、とても良い経験となった。(中筋小)

Q. この事業を実施してどうでしたか？ (児童の様子について)

- ・ 体を動かすのが大好きな子ども達ですので、とても楽しい時間であったようです。一つのことをやり遂げたという自信がついたからでしょうか、より素直に喜びを表現する子どもが増えたように思います。また、使用した新聞紙は算数の面積を求めることに使い、教科の学習にも繋げることができました。(西気小)
- ・ 子どもたちは来校される前から準備していたり、踊ることをとても楽しめたようでした。地域のダンス発表(サロンドダンス)へも参加したがり、夜も集まって練習する程に、身体で表現する楽しさを教えて頂きました。(新田小)
- ・ ダンスや、ダンサーの鈴木先生、ナオ先生と踊ることで、自分の身体や動きを再認識しながら、自分や友達の良さを認め合い伝え合えた。また、ダンスの楽しさを感じる事が出来た。(中筋小)

Q. アーティスト、又は豊岡市民プラザ・JCDN への御意見・御感想をお書き下さい。

- ・ ご指導いただきました先生方をはじめ、市民プラザの方々には何度も足を運んでいただき、本当にありがとうございました。学校だけでは教えることが難しいダンスを通し、子どもたちは大きく成長することができました。今後とも、このような体験事業が増えることを願っております。ありがとうございました。(西気小)
- ・ アーティストは、昨日までの京都公演を見に行く児童や、ワークショップに参加する程、魅力的でした。JCDNさんには本当にお世話になり、コンドルズをよくつないでもらえてよかったです。大変お世話になりました。このような機会を頂いて感謝しております。(新田小)
- ・ 子どもたちとの会話だけでなく、身体表現を通した“ふれあい”をしていただいて、子供たちも心や身体を解放して楽しんでいました。ダンスの楽しさ、先生方の人柄・プロ意識・技を知ることができました。(中筋小)

参加した子ども達からいただいた感想より ※抜粋

西気小学校 アーティストの二人に向けて

● たまみさん、ゆうちゃんへ

・ぼくはコンテンポラリーダンスをして、とても楽しかったです。とくに、新聞をやぶったりすることが楽しかったです。コンテンポラリーダンスは自由におどれるので自分なりのダンスができると思いました。

・わたしは、先生のまねをしたり、走ったり、新聞をやぶったのがとても楽しかったです。新聞で楽器を作ってダンスと合わせているのを見るのがおもしろかったです。

・三日間ぼく達にコンテンポラリーダンスを教えてくださいありがとうございました。ぼくは新聞をちぎったりするのが、とても楽しかったです。全校生徒の前で発表した時はとてもきんちょうしました。

・初めてのとき、しんぶんの中から出てきてびっくりしました。しんぶんしであそんだことも楽しかったです。人をつぐのでは、かずきくとペアでかずきくんが重たくてもてななかったので、ずっとかずきくんにかついでもらって楽しかったです。今日教えてもらったことをわすれないようにしたいです。三日間本当にありがとうございました。

・コンテンポラリーダンスときいた時はなんだろうと思ったけど、新聞紙をつかって音をならしたりするのが楽しかったです。ほんとうにありがとうございました。

・相手のマネをするのが楽しかったです。ありがとうございました。それとつな引きも心にのこりました。たまみさんがおかもと先生をもちあげたのがすごかったです。

・最初見たときはふしぎな感じだったけど、やってみたらとても楽しかったです。新聞でいろいろなことをやったのが一番心にのこりました。これからもがんばってください。おうえんしています。

中筋小学校 アーティストの二人に向けて

● 鈴木ユキオさん、なおさんへ

- ・ 私が3日間ダンスをして思ったことは「体は自由に動く」と、いうことです。私はあまり体を動かすのは好きじゃないけど、ダンスをして「私ってこんなに動けるんだ」と思いました。新しい発見を一つ見つけられて、よかったです。私は最初に「3日間も2時間ずつは長いな。」と思ったけれど、やってみると、おもしろくて、あっというまでした。長いようで短かったけれど3日間ありがとうございました。
- ・ 今日までぼくたちにダンスを教えていただきありがとうございました。ダンスとは自分の表現したいことを人につたえることや、ダンスにもいろいろな種類があることを教えてもらいました。ぼくは鈴木さんと、なおさんから教わったことを、これからの生活に役立てていきたいと思いました。
- ・ ぼくは、ユキオさんのダンスを見て、考えたのを覚えてしてるのかなと思ったけど、考えずに思いついたのを行動にしていますすごいなと思いました。そんなダンスもしてみたいなと思いました。そして、この三日間のあいだ、ダンスを教えていただきありがとうございました。とっても楽しかったです。
- ・ 先生のみためはとても印象に残ってます。2日目、鈴木先生のダンスをみせていただきました。なぜか他のダンスと違うというのが、とてもみりよ的です。痛くないのかな？ とか思っていました。いろんなアドバイスを教えてくださったおかげで本番も楽しくできました。ありがとうございました！
- ・ ぼくは、ダンス教室をするなかで、表現することの楽しさやダンスの楽しさを知りました。ダンス教室をする前は「どんなダンスをするんだろう、はずかしいな」と思っていたけど、やってみると、とても楽しいダンスだったので、はずかしがらずにできました。ぼくはダンスが嫌いだったけど、三日間したダンスはとても楽しかったし貴重な体験ができました。すずき先生はとてもダンスが上手ですごいなと思いました。
- ・ 三日間ありがとうございました。先生方にダンス教室をしていただいて、もう家ではダンサーです。頭に紙をのせるトレーニング、今でも部屋でやってます。先生方とダンスや給食を食べたりした事も楽しかったです。ぼくは、ダンスは激しい動きばかりだと思っていて、いやだなあと思っていました。でも二日目の先生のダンスを見て「これなら、ぼくにも出来る。」と思いました。実際にやってみると、とても楽しかったです。三日間ほんとうに貴重な体験をさせていただきました。
- ・ 三日間で覚えた事は、楽しくダンスをする事です。最初ダンスと聞いた時は、テレビで見たようなカッコイイダンスだと思っていたけど、すこし違っておもしろい動きをしていて「こんなダンスもあるのか」と思いました。鈴木先生とナオ先生とみんなで、紙をつかって紙がおちないようにしたのが一番おもしろかったです。
- ・ 初めて鈴木先生に会った時、すごくカッコイイ人だなと思ったし、すごくニコニコでした。二日目にみたダンスは、ぼくのダンスとは違ったけど、すごくカッコイイし、ダンスの前のニコニコの笑顔が真剣な顔ですごくビックリしました。紙や指を使った練習は以外だったけど、集中力がアップしました。ありがとうございました。

【レポート作成・問合せ】 NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク(JCDN) 担当: 佐東範一、神前沙織

〒600-8092 京都市下京区神明町 241 オパス四条 503

TEL:075-361-4685 FAX:075-361-6225 e-mail: jcdn@jcdn.org web: <http://www.jcdn.org/>